

四中だより

夢に向かって、人生の基礎を築き、大きな翼を育む学校
校訓 自主・自律 協同

新座市立第四中学校学校だより 令和5年7月3日 第4号
TEL 048-477-6053 URL www.c-niiza.ed.jp/j-daiyon



いま、この時期にこそ

校長 鮫島 弘樹

「いやいや、それじゃ素人同然だよ」その世界に詳しい知人に私の体験談を話したところ、にべもなく鼻で笑われてしまいました。もう随分前の話です。

その人いわく、当日に現地であれこれ考え始めたのでは「全然ダメ」なのだそうです。行く何日も前から、入念に計画を練っておくことが肝心だといいます。

千葉にありながら「東京」と名の付く、あの人気テーマパークの話です。大阪の某有名テーマパークなどでも、同じことがいえるのでしょう。

開園前に到着しているのは当然として、「入園したら、まずは遠くのアトラクションから」「昼食は、レストランが空いている早い時間のうちに」「混むアトラクションは、あえて午後に並ぶ」など、何度も通っている人にとっては当たり前らしいのですが、充実した1日を過ごすための流儀というものがあるそうです。

早いもので、3年生が修学旅行で奈良や京都を訪れてから、約1か月が経ちました。最終日に聞こえてきたのは、「もっとここにいたいです」「3日間あっという間でした」といった声です。

旅行業者が企画するツアー旅行とは違うので、出発時刻や宿泊場所、おおまかな行程などのほかは、すべて3年生が自分たちで計画を立てるのです。

特に2日目は、朝から夕方まで長時間の班別行動です。班員が時間をかけて議論しながら、見学地や昼食場所などを厳選し、計画を立てたのだと思います。

「盛りだくさんの内容で、楽しかったです」ほとんどの生徒がそう感じてくれたようで、私も嬉しく思います。

限られた3日間が充実したものになったのは、日中のすべての時間を有効に使えるよう、できるだけ情報を集め、綿密に計画を立てたからに他なりません。

行き先すら決めず、すべてが行き当たりばったりの旅も、それはそれで魅力的で楽しいものです。しかし、修学旅行の場合、計画を立てることや、それを実行することそのものも、学びの一環です。

十分な準備の結果として、内容の濃い2泊3日につながったのだと思います。

7月に入りました。あと3週間もすると夏休みがやってきます。

普段、週末の休みでも、昼近くに起き、ボーッとしているうちに日が暮れてしまい、「勿体なかったな」と後悔した経験のある人は多いのではないのでしょうか。

3年生の修学旅行ほど綿密である必要はありませんが、夏休みに入るまでまだ少し時間のある今のうちに、「やりたい事リスト」を作っておくことをお勧めします。「やらなければならない事」ではなく、「やりたい事」のリストであるところがポイントです。

休みに入ったらすぐに、1つずつそれを実行していくことができれば、「勿体なかった」と後悔することなく、より充実感を得られる夏休みになるはずです。

長期とはいえ、始まればあっという間に過ぎていくのが夏休みというものです。